

徳島大学 留学生センターニュース

<http://www.isc.tokushima-u.ac.jp/>

No.11

2008.6.1

発行：徳島大学留学生センター 徳島県徳島市新蔵町2-24 088-656-7491

目次

- アジア人財資金構想…1
- コース案内…2
- 留学情報…3
- ニュース…4
- 「まほろば国際プロジェクトII」/「とくしま国際フレンドシップ憲章」…5
- 留学体験記…6
- 英語チャットルーム/新任紹介…7
- 行事予定/センター教職員…8

アジア人財資金構想

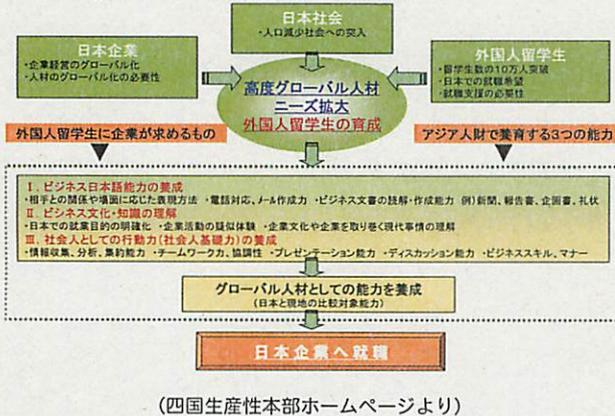
高度実践留學生育成事業の概略

徳島大学では、2008年5月22日から新たに「『アジア人財資金構想』高度実践留學生育成事業」（以下「アジア人財コース」とする）が、スタートしました。アジアの相互理解の促進、優秀な留學生の獲得と日本企業での活躍、アジアと日本の架け橋となる人材育成、地元企業との連携等多くの目的を持ってこの事業は、2007年

に経済産業省と文部科学省の共催によって打ち立てられ、現在北海道から沖縄まで全国で実施されています。徳島大学も2008年度から参画することになり、アジアの留學生が徳島の企業に就職するための支援教育コース「アジア人財」コースが始まりました。本コースは、2年間1週間に3コマで①「ビジネス日本語教育」②『社会人基礎力』をつける「ビジネス教育」③企業での「インターンシップ」が行われます。「ビジネス教育」における講義やインターンシップの受入等、従来の大学内での授業にとどまらず徳島の企業との連携も始まりました。今年度徳島大学では、中国からの留學生4名（博士課程2年生2名と修士課程1年生2名）および台湾からの留學生（博士課程2年生）1名が申請の結果本コースの學生として認定されました。

アジア人財資金構想・教育カリキュラムコンセプト

外国人留學生が日本企業で就職する場合に必要とされる能力をProject Based Learning(プロジェクトベース教育)で身につけるための教育です。



研修会

「アジア人財コース講師研修会」が4月24、25日に徳島大学留学生センター（新蔵・日亜会館）で行われました。本事業における「ビジネス日本語」の共通教育カリキュラム教材を作成した財団法人海外技術者協会（以下AOTSとする）と徳島大学との共催で、東京・名古屋・金沢・福岡・沖縄など、各地からの日本語講師や関係者32名が集まりました。当日は、AOTS春原憲一郎日本語教育センター長による「アジア人財資金構想のためのビジネス日本語カリキュラムについて」、東京工業大学武井直紀教授による「PBL型ビジネス日本語研修・授業の組み立て/授業の実際」・「教材のカスタマイズ」の講演や「地域対応のカスタマイズ教材を作ろう」のワークショップが行われました。またAOTSより「評価ツール/学習管理」の説明も行われました。参加者全員が真摯に取り組み、活発な意見交換も行われ、有意義な2日間となりました。



コース開講式

アジア人財コースの開講式が5月22日(木) 16時半から留学生センター(新蔵、日亜会館2階)で行われました。青野学長並びに四国経済産業局能登靖地域経済部長、四国生産性本部合田武勝コーディネーターによる挨拶、細井留学生センター長による本プログラム概要説明後、第1期生の5名が自己紹介のスピーチをしました。当日は四国経済産業局、四国生産性本部をはじめ学内からは副学長、事務局長、指導教員、留学生センター教員等30名の出席がありました。



コース案内

日本語研修コース

4月8日にスタートしたこのコースは、月曜日から金曜日まで毎日約4時間、日本語を集中して学びます。学習目標は日本語で日常生活ができるようになることです。教室内の授業以外に、書道、華道、茶道といった日本文化の体験学習と、学外では小学校・公民館訪問、ホームビジット(藍住町)・ホームステイ(美馬市)を行います。小学校では、子供たちを前にそれぞれの国や故郷の紹介スピーチをし、公民館では地域の人たちと料理の交流をします。そして8月7日の修了式において、最終課題の約5分間のスピーチを披露する予定です。



◀ 今年の開講式

全学日本語コース

全学における留学生・研究生・研究者とその家族を対象とした週2コマで3ヶ月のコースです。クラスはレベル別にA1からDまであり、A1からB2は「みんなの日本語Ⅰ、Ⅱ」、C1は「J-ブリッジ」、C2は「中級へ行こう」を軸に運用力をつけることを目的とします。またDは、テレビで放映されたものを教材として使用し、ディスカッションやプレゼンテーション力をつけることも目的とします。春期は、留学生が大学にも慣れた5月13日の週から開始し、7月4週目まで行います。

全学共通教育・総合科学部(日本語教師のための科目)

2008年前期

日本語 1 (アカデミック・ジャパニーズ1)
 日本語 3 (大学の講義を聴く)
 日本語 5 (日本語の文体を知る-「話す」から「書く」へ)
 日本語 7 (ジェンダー論)
 日本事情Ⅰ (徳島大学と日本地理)
 日本事情Ⅲ (日本社会事情)
 日本語教育方法論Ⅰ (第二言語習得と日本語学習者)

2008年後期

日本語 2 (アカデミック・ジャパニーズ2)
 日本語 4 (プレゼンテーションの方法を学ぶ)
 日本語 6 (ピア・ラーニングを通して小論文を書く)
 日本語 8 (時事日本語)
 日本事情Ⅱ (徳島の地理と社会)
 日本事情Ⅳ (徳島を知ろう-吉野川を通して)
 日本語教育方法論Ⅱ (教材研究)
 日本語教育演習 (教育実習)

公開講座 「国際交流ボランティア入門 ～徳島に住む外国人を支援するとは～」

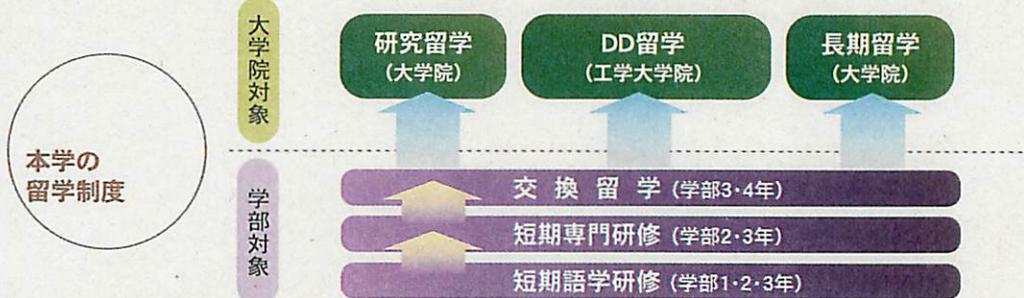
2008年度徳島大学大学開放実践センター公開講座として、これまで留学生支援に携わったことが無い方、国際交流に興味があってこれから実践したいと考えている方を対象に「国際交流ボランティア入門～徳島に住む外国人を支援するとは～」を5月17日から開講しています。

この公開講座は留学生センター教員全員によるオムニバス形式の授業で、オリエンテーション、現代留学生事情(金)、文化・自己・コミュニケーション(坂田)、異文化とコミュニケーション(三隅)、日本語教育と異文化理解(大石)、異文化体験～留学生との交流を通じて～(全員)などの内容で講義を行っています。

留学情報

1. 本学派遣留学制度の概要

現在、本学で展開している派遣留学制度は、大きく分けると、① 短期語学研修、② 短期専門研修、③ 交換留学、④ 研究留学、⑤ ダブルディグリー (DD) 留学、⑥ 長期留学、の6種類に分けることができます。



2. 各留学制度について

① 短期語学研修 語学力UPを目的とした研修

- 派遣時期 8月中旬～9月下旬 (夏季研修)、
2月中旬～3月下旬 (春季研修)
- 派遣先 夏季研修: アメリカ 南イリノイ州立大学、中国 復旦大学
春季研修: ニュージーランド オークランド大学
- 費用 中国 (約20万円)、アメリカ・NZ (約40～55万円)
- 奨学金 あり (学生後援会から3万円の補助)
- 定員 なし (大学院生の応募可)
- 募集締切 夏季研修: 2008年 6月 6日 (金)
春季研修: 2008年11月12日 (水) 予定

② 短期専門研修 専門的知識・技能のUPを目的とした研修

【医学部 サマー・リサーチプログラム】

- 派遣時期 5月下旬～7月中旬
- 派遣先 アメリカ テキサス大学ヒューストン校
- 費用 約50～60万程度
- 奨学金 あり (医学部から50万円以下の補助)
- 定員 1～2名 (医学部学生のみ)
- 募集締切 11月下旬

【医学部 (保健学科) アメリカ短期研修プログラム】

- 派遣時期 3月中旬 (8日間～10日間)
- 派遣先 アメリカ フロリダ・アトランティック大学、テキサス大学ヒューストン校
- 費用 約25万程度
- 奨学金 未定
- 定員 4～5名
- 募集締切 12月中旬

【歯学部 テキサス大学短期研修プログラム】

- 派遣時期 3月下旬 (約7日間)
- 派遣先 アメリカ テキサス大学ヒューストン校
- 費用 約25万程度
- 奨学金 未定
- 定員 若干名
- 募集締切 未定

【歯学部 朝鮮大学校歯科大学研修プログラム】

- 派遣時期 3月下旬 (約7日間程度)
- 派遣先 朝鮮大学校歯科大学
- 費用 約15万程度
- 奨学金 未定
- 定員 例年10名程度
- 募集締切 未定

③ 交換留学 派遣先での「通常授業の履修」を目的とした留学

- 派遣時期 本人の希望および受入先の学年歴による
- 派遣先 本学交流協定校
- 費用 欧米圏: 年間約150万程度、アジア圏: 約70万程度
- 奨学金 あり (学内奨学金、短期留学推進制度)
- 定員 若干名
- 募集締切 11月下旬 (常三島国際課にて受付)

④ 研究留学 派遣先への「研究」を目的とした留学

- 派遣時期 本人の希望および受入先の学年歴による
- 派遣先 本学交流協定校
- 費用 欧米圏: 年間約150万程度、アジア圏: 約70万程度
- 奨学金 あり (学内奨学金、短期留学推進制度)
- 定員 若干名
- 募集締切 11月下旬 (常三島国際課にて受付)

⑤ DD留学 本学ダブルディグリー制度に基づく留学

- 派遣時期 本人の希望および受入先の学年歴による
- 派遣先 本学交流協定校 (DDプログラムに参加している大学に限る)
- 費用 欧米圏: 年間約150万程度、アジア圏: 約70万程度
- 奨学金 あり (学内奨学金、短期留学推進制度)
- 定員 若干名
- 募集締切 未定 (国際教育連携開発センターに照会)

⑥ 長期留学 文科省「長期派遣留学支援」制度に基づく留学

- 派遣時期 本人の希望および受入先の学年歴による
- 派遣先 本学交流協定校 (交流協定校以外でも可)
- 費用 授業料、渡航費、生活費は下記奨学金で対応
- 奨学金 あり (文科省 長期留学支援制度)
- 定員 若干名 (修士・博士課程への進学予定者のみ)
- 募集締切 10月中を予定



3. 相談窓口

■ 短期語学研修、交換・研究留学、長期留学に関する相談

留学生センター (派遣担当) 坂田 浩
留学生センター (日亜会館2F)
088-656-7199
kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp
総合科学部1号館南棟3F

■ 短期専門研修に関する相談

各担当学部 (教務係および担当教員) に直接相談してください。

■ ダブルディグリー留学に関する相談

国際教育連携開発センター 088-656-7643

ニュース

学生サポーター・地域サポーター

留学生センターでは日本語教育を支援する徳島大学の日本人学生と徳島に住む地域の皆さんからなる「サポーター制度」があります。

新入生を迎えて、5月7日に「学生サポーター説明会」を実施しました。

現在は、学生サポーター33名、地域サポーター50名が登録しています。サポーターは、留学生センターが行っている「日本語研修コース」「全学日本語コース」「共通教育の日本語・日本事情」で、動詞等の変換練習・会話の相手、習った日本語を使っ



▲ 5月7日に常三島キャンパスで行われた説明会

武漢訪問プロジェクト ～中国で学生交流をしよう！～

2009年3月末から約1週間、本学学生10名の武漢大学及び上海東華大学訪問研修を予定しています。武漢大学は本学と協定校の関係にあり、2005年3月には徳島から武漢へ、昨年2007年には9名の学生が武漢より徳島大学へといった交流活動を行ってきました。今年の訪問においても、学生同士の日本語と中国語による交流会を企画しています。これまでの参加者からは単なる旅行とは違った「対話による異文化への気づき」が最高の収穫であったという声もありました。6月中に参加者を募集し、旅行及び交流会の準備活動を開始します。



留学説明会

4月22日(火)蔵本留学生支援室、24日(木)・25日(金)常三島共通教育4号館において全学留学説明会を実施しました。合計、30名以上の学生が参加し、本学の留学制度や留学体験(工学部 大学院生常見君)に真剣に耳を傾けていました。留学に対する「熱い思い」を知ることができた気がしました。

最後のページの行事予定表に各種留学説明会の予定を記載しています。

国際交流サロン

「日本語で話そう」が季節の行事や徳島の催事を盛り込んで、留学生と日本人が共に学び協力し合う場になって3年目になりました。留学生センターが徳島大学開放実践センターで行っている公開講座卒業生の有志からなるボランティアグループ「JSS(Japanese Speaking Salon)」と共に企画、運営をしています。毎回前半は、その時々で留学生・日本人と一緒に学び、後半は、1対1になって日本語で交流をします。留学生にとっては日本で生活をするうえで人的ネットワーク作りの一助にもなります。今年度も5月から来年3月まで、色々な企画を立てています。夏までの内容は次のようになっています。



- 5月10日(土)10:30～12:00 「日本語でしゃべらんで(話そう)ー世界の歌を歌いましょう」(終了)
 - ➡ 32名の参加で、マレーシア、韓国、中国、モンゴル、日本の歌を歌いました。(上の写真)
- 6月14日(土)10:30～12:00 「日本語でしゃべらんで(話そう)ー各自のテーマでフリートーク」(終了)
 - ➡ 32名参加
- 7月26日(土)10:30～12:00 「日本語でしゃべらんで(話そう)ー阿波踊りを一緒に踊ろう」

中国四川大地震への救援募金活動

中国四川省で5月12日午後2時半ごろ、マグニチュード7.8の地震が発生し、多大の被害を受けました。本学には四川省出身者十数人と協定校である四川大学出身者数人の留学生が在籍しています。地震直後には実家と連絡が取れなく、心配していた留学生が数人いましたが、同日の深夜から翌日の早朝にかけて全員が実家と連絡が取れ、幸いに留学生家族には大きな被害は受けてないとの安否確認ができました。

地震被災地への救援のため、中国出身の留学生を中心に徳島駅前と学内で募金活動を行いました。5月18日に駅前で留学生(35人)と徳島県日中友好協会(十数人)が共同で募金活動を行い、約37万円の義援金と「頑張ってください」などの励ましのことばを頂きました。また、学内には募金箱を設置し、募金を呼びかけています。義援金は中国駐大阪総領事館を通じて被災地へ送る予定です。



「まほろば国際プロジェクトⅡ」

昨年に続き、本年平成20年度も中島記念国際交流財団の助成を得られたこのプロジェクトは、留学生センターと地域(美馬市)が協力して実施しています。昨年度は、徳島大学から留学生を派遣し、小学校訪問とホームステイ(7月)武漢大学生が国民文化祭ボランティアとして参加する活動(11月)、そして1月27日には、脇町劇場オデオン座にて留学生6名と地域住民33名参加による劇「どんぐりと山猫(宮沢賢治作)」を上演することができました。

約150名の観客からは、暖かい拍手と声援が得られました。今年は、異文化理解教育に力を入れ、美馬市内の小中学校との連携により、異文化理解のための学習活動を行う予定です。さらに11月には再びオデオン座にて、小学生対象にドイツ人のウベワルターさんの話と尺八による異文化理解ワークショップの開催を予定しています。このイベントには、徳島大学から日本人学生と留学生が運営スタッフとして参加します。

留学生らによる



演劇と国紹介!

動画がウェブサイトに掲載されています。
<http://archive.ict-tokushima.jp/plum/>

「とくしま国際フレンドシップ憲章」

県政便り「アワー徳島」に、留学生センター三隅友子教授が参加し制定した「とくしま国際フレンドシップ憲章」の記事が掲載されました。



Tokushima
International
Friendship
Charter

みんなで進める地域からの国際化
3つの合言葉

知りあおう

- まずは、笑顔で「こんにちは」の一声をかけてみましょう。
- お互いの国の様子や習慣など、関心のあることを尋ねてみましょう。
- お互いの文化や習慣などについて、伝えあいましょう。
- ささまざまな交流や活動の場があることを知しましょう。

ふれあおう

- 交流の場などへ参加しましょう。
- 自治会などの地域社会活動へ参加しましょう。
- 共通する趣味などを通じて、交流する機会をつくりましょう。
- お互いに思いやり、困っていることや悩んでいることを聞き相談しあいましょう。

認めあおう

- お互いの思いを自分自身の言葉で語りあいましょう。
- お互いの国の歴史や文化、習慣を学びましょう。
- 生活上の様々なルールを確認し、ともに守りましょう。
- ともに地域社会を構成する仲間であることの認識を持ちましょう。
- あなたも、わたしも同じ地球人としてお互いに尊重しあいましょう。

おもてなしの心で世界の人びと

国籍や民族などの異なる人々が、お互いの文化的な違いを理解し、認めあひながら地域社会の一員として共に生きていけるような、まちづくりを行うために、徳島県では「とくしま国際フレンドシップ憲章」を制定しました。

徳島だからこそできる 多文化共生のあり方を みんなで育てていきたい

地域社会の一員として

日本における外国人登録者数は、年々増加しています。徳島においても、2006年末現在で5,354人となっており、10年前と比べると約2.7倍に達しています。徳島でも少子高齢化が進んでおり、外国人の労働力は、産業や地域活性化のためにも必要となってきました。

国際化が進む今、外国人住民への支援を総合的に行うとともに、地域社会の一員として共に生きていくための制度が「とくしま国際フレンドシップ憲章」です。「多文化共生のまちづくり」と「国際社会に対応した環境づくり」という2つの基本目標に向かって、さまざまな活動を行っています。

まずはお互いを理解する

みんなが安心して暮らすためにも、今まで以上にお互いを認め合うことが必要ですが、徳島の人々は、外国人との交流に対して、まだまだ高い壁があるようです。何から始めればよいか分からないという方もいらっしゃるでしょう。

そんな時に意識してほしいのが「知りあおう」「ふれあおう」「認めあおう」という3つの合言葉です。たとえば「こんにちは」と挨拶を交わすだけで知りあうことができますし、相手も「地域の一員として認められている」という意識につながります。

徳島大学留学センター教授
Gehertz三隅友子



異文化から学ぶこと

また、いろいろな交流の場に参加することで、文化の異なる人々と気軽にふれあってほしいと思います。その際、何か一つのテーマに対してみんなで取りくむことで、より理解が深まるはずです。

「異文化」という「外国」を指しているようですが、世代間の異文化もあれば男女間、職業、地域などの異文化もあります。それぞれの異文化を理解することは、自分の視野を広げることはもちろん、自身の再発見にもつながります。外国人との異文化交流だけが、特別なことではないのです。

憲章をみんなで育てよう!

私も外国で暮らしていたことがありますが、最初は本当に心細く感じました。徳島で暮らす外国人たちも、同じような気持ちでしょう。

この憲章には「おもてなしの心で世界の人びと」というキャッチフレーズがあります。徳島独特の文化である「おもてなし」の精神を発揮すれば、外国人へのサポートもずいぶん楽しくなるのではないのでしょうか。

しかし「おもてなし」はあくまで最初のきっかけであって、そこから、さまざまな付き合い方や考え方が生まれてくるはずです。それを育て、徳島独自の多文化共生のあり方を考えていくのが、まさにこの憲章の役割だと思います。

留学体験記



濱口 肇子

先端技術科学教育部 環境創生工学専攻 化学機能創生コース 博士前期2年

私は、2007年8月から2008年2月まで、アメリカ・フロリダ州のFlorida Atlantic Universityへ研究留学をしました。アメリカの大学で研究したいという以前からの夢があったことから、専門分野の研究が主な目的でしたが、その他にもアメリカ人の学生を初め、様々な国からの留学生、またはホームステイ先の家族と交流を持つことができました。

Florida Atlantic Universityは非常に大きな大学で、私はBoca Ratonという町にあるキャンパスに、毎日ホームステイ先から自転車通っていました。自転車ですぐのところ到大西洋があり、一年中暖かい気候のおかげで、冬の時期でも海で泳いだり、マリンスポーツを楽しんだりしている人がたくさんいました。また、昔から日本からの移民がたくさんいたことから、日本文化を紹介する大きな博物館があるなど、人々の日本文化への理解が深い場所でした。

研究面では、FAUの環境科学の研究室に所属し、埋め立てゴミからの汚水の浄化方法を研究していました。試薬で作った擬似廃液でなく、本物の汚水を使った実験ができる事が、出発前が一番の楽しみでした。その期待通り、新しい発見もでき、研究を大きく発展させることができました。

また、一週間ほど、サンプリングの為に遠征で、フロリダ中部のほとんど人が住んでいない地域を回って水や砂サン

ルを集めて回ったこともありました。その時、午前4時頃に湖畔でサンプリングをしていた時、ふと空を見上げると、周りにまったく光が無い地域のせいか、見た事のない満天の星が空全体に広がっていました。その光景は、今でも目に焼きついています。

留学中には、アメリカ人、ジャマイカ人やエジプト人等、様々な出身・文化の人たちと親しくさせていただきました。その中で、将来、どんな就職をしたいかや、それぞれの国の治安、医療事情などについて話し合った事は、現在私が将来を考える上でとても重要な軸になりました。

出発前は、計画した研究を終えて帰国できるか少し心配でしたが、あの時一歩踏み出して、留学を実現させて、本当に良かったと思っています。これからもここで学んだ事を活かして挑戦し続けていきたいと思っています。



常見 徹

先端技術科学教育部 知的力学システム工学専攻 博士前期2年

私は2007年2月から2008年の2月のおよそ1年、大学の学術交流協定制度を利用して、アメリカのフロリダアトランティック大学に留学しました。大学の学部時に1年間休学をしてカナダに私費留学をして、英語および文化の違いにすでに触れていたためアメリカに決まった時も不安はありませんでした。フロリダアトランティック大学はフロリダ州都タラハシーから車で6時間南、マイアミから1時間北に行ったところにある総合大学で、私は日本では専攻が機械工学でしたが、civil engineering学科に所属して、修士論文のための研究を行っていました。海洋環境下での竹の耐久性および腐食の影響の調査が私の研究テーマ、南米では竹は強度面から建築の材料や、見栄えから家具などにも使用されていました。そのため、大学でも竹を利用した橋の開発などの研究もされていました。

私生活では日本で経験しなかったことを体験してみようと、大学のテコンドー部に入部し、帰国前には主将兼組織運営を任せられました。担当教授からTA(Teaching Assistant)の職を与えてもらえ、教授、授業の補助や学部生の実験、宿題の補助も経験しました。自分が間違っていないのなら、相手に合わせるのではなく、はっきり主張する、自己主張の強さにははじめはとても戸惑いましたが、それは私にとって大きな刺激になりました。アメリカは様々な国から人々が移住しており、アメリカ人だけでなく、コロンビア、ブラジル、インド、ギリシャといろいろ

な人と友達になることができました。そのため、日本でうまくいっていたことが、すべてうまくいくということはほぼ0に近いものでした。しかしながら、自分で今できることを1つ1つ確実にやっていくことを心がけました。英語、文化の違い、生活環境の違いから、落ち込むこともありましたが、常に「それぞれ皆、社会的背景が違うので、うまくいくことはない。今できることを確実にやる。」ということを持ち続けていました。多くの人は「留学」と聞き、カッコいい、憧れという感じがするというをよく聞きます。しかしながら、私が思うに留学は楽しいこともあります、多くは辛いことが多いです。その辛さをどのようにしたら楽しさに変えられるのかは自分自身にあると思います。私自身、私費留学での1年、そしてアメリカ留学での1年の経験を通して広い目で見える価値観と自信を得ることができ、今後、常に何事にも挑戦して、向上心を持ち続け、グローバルなエンジニアを目指していきたいと思っています。



英語チャットルーム

英語でしゃべる

自主講座が人気

徳島大、学外参加OK

徳島大常三島キャンパス

(徳島市南常三島町1丁目)

で行われている自主英会話講

座「ENGLISH CHA

T ROOM」が、今年度も

始まった。同大学留学生セン

ターの坂田浩准教授(42)は

「開講回数が増え、

英語でのおしゃべりの場とし

て定着してきた」と話す。

15日の講座には、中国やベ

トナムなどから来た留学生や

日本人学生約15人が参加。小

グループに分かれて約1時間

半、春休みの過ごし方や今学

期の目標について会話を楽し

んだ写真。同大学総合科学

部3年の松浦省子さん(20)は

「講座に参加しているおか



げで、海外でも度胸がついた」。米国出身の留学生ビクトリア・ブローヤーさん(21)も「日本の友達をつくるいい機会」と喜んでいました。

学外の人でも参加可。毎週火、木曜の午後6時から常三島キャンパス生協食堂2階で開講。無料。問い合わせは坂田准教授(088・656・7199)。

▲ 朝日新聞徳島版 2008年(平成20年)4月22日

新任紹介



吉良 知哲 研究国際部長

平成20年4月1日付けで研究国際部長に就任しました。以前は鹿児島大学で3年間、同様の仕事をっていました。徳島大学における留学生施策の充実や留学生センターの発展に努めてまいりたいと思っておりますので、よろしく願います。



橋本 智 准教授(日本語教育担当)

これまで日本やアメリカで日本語のクラスを担当し、いろいろな国や文化からきた人に会うことができました。日本語を教える仕事をしていますが、学生の皆さんから学ぶこともたくさんあります。徳島大学で新たな出会いがあることをとても楽しみにしています。



岡崎 房述 国際課長

春、雪の残る鳥取から赴任して参りました。国際化ポリシー“世界に開かれたTHE UNIVERSITY OF TOKUSHIMA”の実現を目指して頑張ります。皆様のお力添えとご指導をよろしく願います。夏、世界を阿波踊りを楽しみにしています。



佐藤 陽子 国際交流係員

今年から日亜会館の事務室で働いております。宿舎の留学生の皆さんと接する機会が多いので、交流を深めて語学や異文化も勉強していきたいです。よろしく願います。



大坪 富一 国際課課長補佐

本年4月から担当することになりました。留学生関係の業務は初めてで戸惑っておりますが、よろしく願います。日本語以外ほとんど話せませんが、少しでも留学生の皆様のお手伝いが出来ればと思っています。



佐藤 亜樹 国際交流係員

今年5月より、国際課国際交流係でお世話になっております。徳島県には4月に引越してきたばかりなので、これからこの徳島大学で地元の魅力をたくさん見つけていきたいと思っています。宜しくお願いいたします。

留学生センター 2008年度 行事予定

- 4月** 日本語研修コース開講式 (11日)
 新入留学生ガイダンス (17日:新蔵、18日:常三島)
 日本人学生対象留学説明会 (22日:蔵本、24日・25日:常三島)
 英語チャットルーム (前期) 開始 (15日)
- 5月** 学生サポーター説明会 (7日)
 国際交流サロン「日本語でしゃべらんでー世界の歌を歌おう」(9日)
 全学日本語コース開始 (12日)
 アジア人財コース開始 (22日)
 夏季短期語学研修説明会(13日:蔵本、15日・16日:常三島)
 国際ボランティア入門講座開始 (17日)
- 6月** 新入留学生フォローアップガイダンス
 国際交流サロン「日本語でしゃべらんでー友達になろう」(14日)
 日本語研修コース ホームビジット (14日)
 外国人学生のための進学説明会 (東京29日、大阪7月6日)
- 7月** 外国人による日本語弁論大会
 日本語研修コース 研修旅行 (17～19日)
 全学日本語コース終了 (18日)
 国際交流サロン「日本語でしゃべらんでー阿波踊り」(26日)
 日本人学生対象留学説明会 (17日・18日:常三島、22日:蔵本)
 英語チャットルーム (前期) 終了 (24日)
- 8月** 夏期休業 (1～31日)
 日本語 (春期) 研修コース終了式 (7日)
 徳島文化体験交流会 (阿波踊り)
 夏季短期語学研修(中国)開始(2日出発～8月28日帰国予定)
 夏季短期語学研修(アメリカ)開始(15日出発～9月28日帰国予定)
 県職員のための「国際化講座」(徳島県自治研修センターとの共催)
 伊方原子力発電所見学旅行
- 9月** 日本文化体験交流会
 国際交流サロン「日本語でしゃべらんでー友達になろう」
- 10月** 徳島大学インターナショナルセンター (仮称) 設置
 日本語 (秋期) 研修コース開講式
 全学日本語コース開始
 地域との交流会
 国際交流サロン「日本語でしゃべらんでー書道」
 英語チャットルーム (後期) 開始 (7日)
 日本人学生対象留学説明会(21日:蔵本、23日・24日:常三島)
- 11月** 国際交流サロン「日本語でしゃべらんでー留学生の国への誘い」
 日本留学フェア (ベトナム)
 多文化体験交流会 (1～3日 大学祭)
 徳島地域留学生交流推進協議会運営委員会
 ホームステイ
 春季短期語学研修(NZ)説明会(4日:蔵本、6日・7日:常三島)
 短期留学推進制度・学内留学用奨学金締切
- 12月** 国際交流サロン「日本語でしゃべらんでー茶道」
- 1月** 国際交流サロン「日本語でしゃべらんでー世界の料理」
- 2月** 日本語研修コース終了式
 全学日本語コース終了
 国際交流サロン「日本語でしゃべらんでー着物を着よう」
 春季短期語学研修(NZ)開始(21日出発～3月29日帰国予定)
 英語チャットルーム (後期) 終了 (3日)
- 3月** 徳島地域留学生交流推進協議会
 外国人留学生交流懇談会 (学長主催)
 国際交流サロン「日本語でしゃべらんでー雑飾り」

留学生センター 教職員

センター長

細井 和雄 教授/学長補佐 hosoi@dent.tokushima-u.ac.jp
 Tel:088-633-7323

日本語教育部門

Gehrtz三隅友子 教授 misumi@isc.tokushima-u.ac.jp
 Tel/Fax: 088-656-7120 (内6214)

大石 寧子 教授 oishi@isc.tokushima-u.ac.jp
 Tel/Fax: 088-656-9875 (内6212)

橋本 智 准教授 hashimoto@isc.tokushima-u.ac.jp
 Tel/Fax: 088-656-9872 (内6213)

留学生派遣・受け入れ部門

坂田 浩 准教授 kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp
 Tel/Fax: 088-656-7199 (内6211)

相談・指導部門

金 成海 教授 kin@isc.tokushima-u.ac.jp
 Tel/Fax: 088-656-7543 (内6215)

事務局

研究国際部長 吉良 知哲
 kenkyubuchou@jim.tokushima-u.ac.jp/Tel:088-656-9809

国際課長

岡崎 房述 kokusaikachou@jim.tokushima-u.ac.jp/Tel:088-656-7634 (内6223)

課長補佐

大坪 富一 ryugaku@jim.tokushima-u.ac.jp/Tel:088-656-7079 (内7079)

国際交流係長

原 雄三 ryugakk@jim.tokushima-u.ac.jp/Tel:088-656-7491 (内6220)

国際交流係員

青山 由美 ryugakuk@jim.tokushima-u.ac.jp/Tel:088-656-9950 (内7183)

古城 浩子 kokusaikoryu@jim.tokushima-u.ac.jp/Tel: (内6220)

佐藤 陽子 kokusaikoryu@jim.tokushima-u.ac.jp/Tel: (内6221)

尾崎 綾 ryugakuk@jim.tokushima-u.ac.jp/Tel: (内7182)

佐藤 亜樹 aksato@jim.tokushima-u.ac.jp/Tel: (内9951)

国際交流会館 (北島) kaikan@mb.infoeddy.ne.jp
 Tel:088-698-1244

留学生支援室 (蔵本地区) ryugaku@isc.tokushima-u.ac.jp
 Tel/Fax: 088-633-7398 (内7398)